

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

客観式4個(記述式4個), 論述式21題(1行×5, 2行×13, 3行×3, 計40行)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

客観式の解答数は、選択式の問題がなく、記述式が6個減少して4個となったが、論述問題の数は昨年度の19題から21題に増加し、行数が1行増加したため、分量に変化はない。内容的には、書きにくい論述問題も含まれるが、頻出のテーマが多く、全体の難易度は昨年度と大きな変化はない。

出題の特徴や昨年との変更点

人間活動が自然に及ぼすさまざまな影響、経済のグローバル化にともなう問題、アジアの産業や経済、日本の災害と対策など、これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり、過去問の学習が重要である。さまざまな地図と地理情報を扱った主題図が近年多用される傾向にあるが、本年度は世界の主なサンゴ礁の分布図、太平洋におけるマイクロプラスチックの濃度を示した図が出題された。

その他トピックス

第1問設問B(3)では、2019年度、2020年度に出題された数値を問う問題が出題された。指定語句をとまなう論述問題は、昨年度は4題あったが、本年度は1題のみだった。中国地誌は、2005年以降の出題である。

第2問設問Aの(1)ASEANと中国、(2)ASEANと日本の貿易については、2025年度直前講習第2講で扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述式 論述	海洋	設問Aの(2)ではサンゴ礁が分布する自然条件から考えたい。(3)は、日本のサンゴ礁が海洋島に由来するものであることを問題文から気づきたい。設問Cの(1)では、プラスチックの供給が東アジアにおける夏の多雨によるものだと指摘できるかで差がついたと思われる。	標準
第2問	記述式 論述	アジアの2地域 (ASEANと中国) の経済と社会	設問Aは、(1)(2)ともに頻出のテーマであり、高得点を目指したい。(3)は、結論をどうするのか解答作成に悩むが、オーストラリアからの主要輸入品目から考えたい。中国に関する設問B(2)(4)は、資料と中国国内の地域の特徴を関係づけることが重要である。	標準
第3問	記述式 論述	日本における 林業と水害	設問Aは、比較的書きやすく高得点を目指したいが、(4)の指定語句は、使い方が難しい。設問B(2)(3)のグリーンインフラの役割の指摘は容易だが、(3)の問題文の「導入する際に考慮すべき社会的な課題」については、解釈が悩ましい。(4)は、交通弱者だけでなく、情報弱者に気づけるかで差がついただろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 客観式問題での得点が合否にかかわるため、教科書や共通テスト(センター試験)の過去問などで基本的知識を習得しておきたい。
2. 指定語句を使ったり、資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので、60字程度の短い論述演習を繰り返しておこう。総字数も多く、限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
3. 統計を解釈する問題が頻出しており、統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。
4. 日本の変化に関する問題が頻出であり、「高度経済成長期」、「石油危機」、「円高」、「バブル崩壊」、「都心回帰現象」、「知識経済化・情報社会化」など、時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの時期の特徴を理解しておきたい。
5. 日本に関しては、具体的な地域についての知識よりは、大都市圏と地方圏、大都市圏内の都心と郊外、地方圏における中心都市など、機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
6. 地形については、地形図だけでなく、標高分布図や地形区分図などの図が出題されることも予想される。典型的な地形の地形図から具体的な地形がイメージできるようにするとともに、新旧地形図の比較も練習しておこう。